ごあいさつ

21世紀を迎え、地球環境保全の分野においても、気持ちを新たに取り組みが行われておりますが、閉鎖性海域の環境保全についても例外ではありません。

11月19日から22日、神戸・淡路の地において第５回世界閉鎖性海域環境保全会議を開催させていただきます。

20世紀において、瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域は、その沿岸域に住む人々に大きな恵みを与えましたが、人口の増大や産業の発展に伴い、環境汚染という深刻な問題を抱えることとなりました。1960年代後半は瀬戸内海にとって最悪の時代でありましたが、そうした環境の危機に接した人々の英知と努力から、環境の汚染の進展がくい止められ、さらに環境を修復しようという努力が行われています。

そうした人々が、他の閉鎖性海域の環境保全に取り組む人々にそれまでの経験を伝え、また、自らも学ぶということから、EMECS（エメックス）という活動が1990年神戸で生まれ、それがチェサピーク湾、バルト海、黒海、地中海など世界の閉鎖性海域の環境保全に携わる人々の国際的なネットワークに発展し、既に10年になりました。

振り返りますと、この10年の間に私たちを取り巻く状況は大きく変化しました。日本における環境保全に対する考え方も、水質改善、有害物質規制など公害防止対策中心から、環境基本計画に見られるように、生物多様性の保全、健全な水循環の回復と確保、物質循環の促進、豊かな自然とのふれあいの確保など幅広く環境を保全するものに変化してきました。また、環境の研究や改善に努力を惜しまない若い研究者も増加し、環境関連技術も大きく進歩してきました。一方、一般市民の意識も大きく変化してきています。

こうした背景のもとに開催します「第5回世界閉鎖性海域環境保全会議」は、世界の科学者、行政や企業関係者、市民が集まり、閉鎖性海域の環境保全のためにこれまで何をしてきたのか、また、これから何をしていくのかを検証する国際会議です。この会議に多くの方々にご参加いただき、環境の修復と創造という視点から、将来の閉鎖性海域の環境保全を推進する上で極めて重要な会議となることを期待してやみません。

近藤次郎

第５回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会会長